



「鬼は外 福は内」園児が元気に豆まき ～市内保育・幼稚園で節分の行事

■2月3日の節分の日、市内の保育・幼稚園にも鬼が現れました。このうち、まくらざき保育園(写真)には赤鬼と青鬼が出没。園児は「悪い子はいないか～」と暴れまわる鬼に怖がりながらも、「鬼は外～」と言いながら懸命に豆を投げていました。



ものを大切に作る心を養おう ～枕崎児童館で『もったいないまつり』

■枕崎児童館主催の『もったいないまつり』が2月25日、同館で行われました。このまつりは、いらなくなったおもちゃや本などを子どもたちが持ち寄りポイント換算し、さらに、こま作りやゴミ分別などのコーナーを体験することでポイントがたまり、そのポイントとそれぞれが持ち寄った物品とを交換するというものです。



▲いっぱいポイントためるぞ！

まつりを企画した児童厚生員の藤元聖子さんは「ものが溢れている時代だからこそ、子どもたちにはものを大切にすることを学んでほしい」と話していました。



歌や踊りをいきいき発表 ～第26回老人クラブ芸能大会

■老人クラブ芸能大会が2月24日、市民会館で開催され、約400人が参加しました。25団体が歌や踊りなど、日ごろの練習の成果をいきいきと発表しました。

川辺チーム 21年ぶりの総合優勝 ～第59回市郡対抗県下一周駅伝競走大会

■県下一周市郡対抗駅伝競走大会が2月25日から29日まで、県内全域を舞台に行われ、初日に本市を通過しました。第8中継所の市役所前に川辺チームのランナーが1位で入ってくると、大きな歓声があがり、本市出身の田畑庸祐選手にたすきが渡りました。また、まくらざきハーモニーネットワーク委員会による茶節と腹皮のから揚げの振る舞いもあり、大盛況となっていました。

本市関係選手では、前田高志選手(別府中学校職員)が2回の出走ともに上位に食い込み、川辺チームの総合優勝に貢献しました。



本大会の様子(県民交流センター)



◎枕崎鰹船人めし 釣ったカツオを船上でさばき、井ぶりに豪快に盛り付ける漁師飯。これを本枯れ節や枕崎ぶえん鰹などを使い、現代風アレンジしました。



『枕崎鰹船人めし』S-1グランプリ王者に ～商店街グルメNo.1決定戦『S-1グルメグランプリ』

■県内の商店街グルメナンバリングを人気投票で競つ『S-1グルメグランプリ』で枕崎市通り会連合会(加藤隆一会長)の『枕崎鰹船人めし』がグランプリに輝きました。昨年10月から県内各地で行われた地方大会と、2月18、19日に県民交流センターで13団体が出場した本大会(最終戦)のいずれも最高得票率を獲得し、特別賞も受賞しました。

加藤会長は「市民が一致団結してつかんだグランプリ」と話していました。

『枕崎鰹船人めし』は、3月1日から市内10店舗で提供しています。

【提供店(順不同)】味処一福、居酒屋えびす、魚処なにわ、魚処まんぼっ、喜久家食堂、小料理雪しずく、すし匠五葉、だいとく、呑喰厨房ぶくろ、枕崎お魚センター



たすきでつなぐ地域の絆 ～第37回校区内一周親子駅伝大会

■金山小学校の伝統行事『校区内一周親子駅伝大会』が1月29日、金山校区を周る約3.3kmのコースで行われ、5チームが出場し、各チームは児童4人、大人2人の計6人でたすきをつなぎました。

黒瀬志音くん(6年)は「地域のたくさんの人の応援が嬉しかった。お母さんの走る姿を見ることができてよかった」と話してくれました。



新たな枕崎の魅力を紹介 ～観光ボランティアガイド『花渡川クラブ』ツアー

■『花渡川クラブ』によるツアー『早春のさつま潟を巡ろう』が2月26日に行われ、県内各地から37人が参加しました。

一行は観光案内所を出発し、赤水海岸にある赤水神社や採石場、枕崎漁港東側にある西郷隆盛が上陸したというガンギヤ宿泊地など、今まであまり紹介されることなかった観光スポットを興味深く見て回りました。

今月のラブ枕崎愛人さん
枕崎愛マークステッカーを携帯
電話や身近なものに貼って
枕崎愛をケータイして
いる人を紹介する
コーナー
です



◀木口屋集落とNPO法人子育てふれあいグループ自然花のみなさん

We LOVE MAKURAZAKI 投稿をお待ちしています。画像と名前(フルネーム)を添えて投稿してください。総務課秘書広報係 E-mail hisyokoho@city.makurazaki.lg.jp